

1.計画名称

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	やや遅れている	説明	諏訪南リサイクルセンターの開所に合わせて、令和3年10月からその他プラスチックの分別収集を開始しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、説明会等が開催できず十分な周知ができていません。焼却施設は稼働してから20年以上経過し、安定した焼却処理を行っていくための改修工事が必要です。
今後の重点化施策番号	3	説明	ごみ焼却施設は供用開始から25年目を迎えますが、全国の施設の稼働から廃止までの平均年数は約30年です。施設を更新する場合、一般的に候補地選定から新施設が稼働するまで10年程度かかるとされています。既存施設改修工事の検討のほか、新施設の検討が必要です。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	住民・事業者・行政の役割の明確化と実行	やや遅れている	諏訪南リサイクルセンターの開所に合わせて、令和3年10月からその他プラスチックの分別収集を開始した。また、例年どおり剪定木のウッドチップ化、木製家具類の資源化、雑紙専用の回収袋の配布などを継続して行っている。	その他プラスチックの分別収集を市民生活に定着させる必要があるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、説明会等が開催できず十分な周知ができなかった。	ごみ分別収集のてびきを全戸配布する。 環境自治会を通じてその他プラスチックの資源化を周知し、市民の生活に定着させる。
2	発生抑制 (Reduce)、再使用 (Reuse)、再利用 (Recycle) の推進	遅れている	排出される可燃ごみを減量するため、資源化を推奨し適切に処理するための周知や、美サイクル茅野と連携した取り組みを継続して行っている。 また、環境館では3Rの普及活動の取り組みとしてリユースを推進している。	排出されるごみの量は減少傾向にある。リサイクル率の変化は見られない。引き続き市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行う必要がある。	ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。 ごみの出し方のてびきの作成配布等ごみ減量のPR活動を実施する。
3	環境に配慮した効率的なごみ処理体系の構築	おおむね順調	焼却施設の定期的な点検を実施し、必要な修繕工事を施工した。	施設が稼働してから20年以上経過し、定期的な修繕では安定した熱効減量率の維持が難しい状況となっている。 修繕工事については、社会情勢により必要部材がない等の理由により十分に行えなかった。	清掃センターの精密機能診断により、安定した焼却処理を行っていくための改修工事計画を2023年度に策定する。
4					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		

5.添付資料

別紙「施策評価シート」